

災害統計グローバルセンター(GCDS)3者定例会議～Global Centre for Disaster Statistics (GCDS) Tripartite Meeting～が開催されました(2018/7/31)

テーマ：災害統計の整備、国際連携
場所：富士通株式会社（東京・汐留オフィス）

2018年7月31日（火）、災害統計グローバルセンター（GCDS）の3者定例会議（参加主体：東北大学災害科学国際研究所、国連開発計画（UNDP）、富士通株式会社）が開催されました。当研究所からは、情報管理・社会対応研究部門 社会連携オフィスの小野裕一教授、佐々木大輔助教、田中秀実研究員、森山佳奈研究員が出席しました。

UNDP と当研究所は、本年7月にモンゴル・ウランバートルで開催されたアジア防災閣僚級会議（AMCDRR）のサイドイベントにおいて、富士通株式会社が構築したグローバル災害統計データベース（GDB）のソフトローンチを発表しました（当該データベースについては、近日中の運用開始が予定されています）。今回の会議では、当該データベースをどのように運用し、パイロット国7か国（インドネシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、フィリピン、ミャンマー、モルディブ）に展開していくか等について、活発な議論が行われました。

災害統計グローバルセンターは、引き続きUNDP や、富士通株式会社をはじめとする民間企業との連携を密に取り、世界の災害統計の発展と防災力向上に向けて、学際的・分野横断的に研究・活動を進めていきます。



会議の様子

文責：佐々木大輔（情報管理・社会連携部門）